

「学校現場における イメージ表現療法の導入」

2012年8月18日

大阪大学大学院

大前玲子

● この基調講演は、鳴門生徒指導学会並びに日本コラージュ療法学会に帰属するものである。

はじめに

- 演者は今はまた心理臨床の世界に戻っているが、臨床心理士でありながら小学校の教師をしていたことがあった。
- ここでは臨床心理士が教師になった自分の体験を踏まえて述べることにする。

教師と臨床心理士の違いと共通性

- 人と出会うスタイルは一見違うが、演者の中では、教師の場合も臨床心理士の場合も人と出会う基本的なものはいずれの場合も共通
- 
- 教師の場合も臨床心理士の場合も
- 「心を育てるためにはどうすればいいか」について考えていた

心を育てるにはどうすればいいか

- 「心理療法の視点を取り入れた学級経営」
- 集団に焦点を当てた従来の学級経営に加えて、個人を扱う心理療法の技法を取り入れる方法



- 臨床心理士は**1**対個人（又は小集団）を対象
- 教師は**1**対学級全体を対象

「心理療法の視点を取り入れた学級経営」について演者のイメージとは

- ・個人対象のプレイセラピーの流れを学級全員を対象にしているイメージ
- ・教師をセラピストとしてとらえ、学級風土の中での病理に心理療法的アプローチを導入するイメージ



- 子ども各個人が癒され学校ストレスが低減される
 - 子ども同士の間人間関係が親密になり学校生活が楽しくなる
 - 学級風土の中での病理が回復する

「心理療法の視点を取り入れた学級経営」

- コミュニケーション力をつける方法
- 教師が話を聴くことで子供たちのコミュニケーション力を育む⇒傾聴
- Rogers, C.R. (1969)が「生徒中心授業」
- 学習だけでなく、情緒の発達や心のケアに成果をあげたことが記載されている

ここで用いたイメージ表現

- 風景構成法・・・学級の子どもたちのアセスメントをするために用いた。
- 元型イメージ画・・・イメージを触発する方法である。
- 自由画・・・描画によるアプローチは、プレイルームでプレイをするように、画用紙を自分の心の世界と見立て、画用紙の中では自由にイメージを展開させていくというものである。

イメージ表現の技法

- 風景構成法
- 精神科医である中井久夫により**1969**年に創案された芸術(描画)療法の一技法である。
- 川・山・田んぼ・道・家・木・人・花・動物・岩・その他の順に教示し, その順に描写する。

元型イメージ画「元型による美術教育」

- ・ユング派の分析家であるカナダの心理学者
ジョン・アラン(**Allan, 1988**)によるものである。

- ・「大地」「火」「水」「太陽」のテーマの物語を教師が読み聞かせて、それにより子どもが触発されたイメージを連想し各テーマの絵を描くというもので、無意識のイメージを活性化し表現するのに有効だと考えられる。

自由画

- 「自分が描きたいものを自由に描く」のだが、これはより意識的な表現もできる形にし、しかも通常の学校教育の中では比較的まれな自由度の高い、安全なアプローチと思われる。

学級における演者の「心理療法の視点を取り入れた学級経営」

当日は，子どもたちの心の安定を取り戻そうと傾聴をベースにした心理臨床的態度を基本に，風景構成法，元型イメージ画，自由画をクラスに導入した事例を交えて発表した。

詳細は，以下に記載しています。

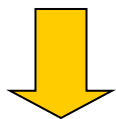
大前玲子(1999)「小学校での事例：心理療法的視点を取り入れた学級経営」河合隼雄他総監修「学校の心理臨床」金子書房P226－238.

「心理療法の視点を取り入れた学級経営」による 変容プロセス

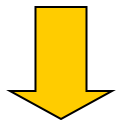
- 個々の子どもが,それぞれの心の内的世界を
絵画などイメージで表現する



- 個々の心が癒され



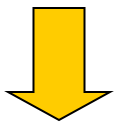
- 個人の成長発達が促進される



- 学級集団も成長する

心の成長発達を促す方法としての 「心理療法の視点を取り入れた学級経営」

- 問題のない学級が良い学級ではない。
- 問題が起きたときにみんなの力で乗り越えることができ、解決できる学級が良い学級といえる



- 力を合わせて問題を解決することができるように学級成員の心が育っていること。
- 問題を解決することによって各成員の人格が成長する。
- 個々の成長  学級の成長

おわりに

- 学校の主役は子どもたちです。
- その子たちが大人になって、小学校時代を振り返ったときに「あの頃はよかったなあ」としみじみ思い出せるような学校であるために、学校現場に関わるすべての大人たち、教師も臨床心理士も協力していきたいものです。